

令和4年度 学校評価シート（通信制まとめ）

※評価基準(4:良い、3:やや良い、2:やや悪い、1:悪い / A:4.0～、B:3.0～、C:2.0～) ⇒			自己評価				学校関係者評価		次年度への改善策	
			R4末	R4中	R3末	評価	意見・要望・改善案	評価		コメント
【1】 学校運営	1	重点目標に基づいた教育活動ができるよう分掌への働きかけは適切であったか	3.4	3.4	3.2	A	○校内のICT推進体制整備のため、現行・校内組織の「校内LAN等担当とICT教育等担当」を県からの体制イメージに合わせてもらい、業務負担分散してもらいたい。具体的には、情報管理分掌に「校内LAN運用担当者」の配置、ICT活用に「ICT活用推進委員」（複数任命）と「ICT端末基板管理担当」のように兼務ではない状態で配置が必要。 ⇒ICT関連の業務は増加しています。県の業務分担を見ながら、増員の検討は必要と考えます。ただし、現在の分掌の人数を減らすことはできないので、兼務の形が想定されます。	A	・ギガスクール構想で中学校でもタブレット等持たせている。NHKフォースクールの番組を見せたり、図やグラフを見せたり等で使用するが、教員のスキルによって利用頻度は変わってくる。上手く活用すると効果が上がる。 ・オンライン会議等が増え、色々な所とつながることは可能になった。移動時間が減った分、働き方改革の観点からは利点はある。 ・ICTをはじめとする新たな取り組みは働く者の負担感を増しているイメージはある。学校の先生方の労働時間は多すぎる。 ・発達障害の生徒にとっては、話すことよりもパソコンで文字にする方が伝えやすい場合もある。上手く活用することだ。	・ICT業務担当については、教員の負担増も考慮し、来年度は3人体制を考えた。また情報管理委員会を立ち上げ、規程の整理、組織の一元化等に着手したい。
	2	教職員の教育活動に対する取り組みへの協力は適切であったか	3.5	3.3	3.3	A				
	3	運営委員会・職員会議・課程会議の運営は適切であったか	3.4	3.3	3.2	A				
	4	校務分掌・各種委員会どうしの連携は適切であったか	3.1	3.2	3.1	A				
	5	校内組織の編成は適切であったか	3.3	3.1	3.0	A				
【2】 総務	6	年間行事予定の設定および全日制・定時制との連携が適切であったか	3.3	3.3	3.1	A	○概ね円滑に運営できた。 →ホームページ更新の講習・呼びかけなどを心がけたい。 ○危機管理→避難訓練、防災学習は有効。次年度は起震車体験等も検討。 ○ICTを活用した更に効率的な運営ができるように、各人に活用マニュアルの配布があれば便利と思いました。 ⇒・ICT支援員さんに積極的に支援を受けるべき。	A	・ホームページ等に授業の動画をアップすることも効果があるのではないかと。書道で筆の運びを実際動画で見せると効果的だ。	・通信制においてもホームページについてはよりよい情報発信を呼びかけたい。
	7	学校行事の円滑な運営が行えたか	3.4	3.4	3.4	A				
	8	PTAおよび各種外部団体(奨学金関係を含む)との連携が適切であったか	3.3	3.2	3.2	A				
	9	危機管理体制の整備が適切であったか	3.2	3.2	3.0	A				
	10	ホームページへの記事掲載が充実していたか	3.1	3.0	3.2	A				
【3】 教務	11	生徒の学習システムの理解につながる情報発信が充実していたか	3.3	3.2	3.2	A	○新課程の評価方法、レポートの形式等検討事項が多かったと思うが、早めにやり方を示していただき、安心した。来年度は慣れてきて、もう少しスムーズに処理できると思う。 ⇒・新課程対応のレポート作成については、他の通信制の学校と情報交換をしながら生徒が見通しをもって取り組み、各先生方から結果を返しながらいりを通じた多面的な見方を身につけていけるようにブラッシュアップしていきたい。(新教育課程レポートの検証と作成、Googleクラスルームの活用) ○学校見学をして、なんとなく通信制のシステムを理解して入学する生徒が多くなったが、学校見学をしないで入学した生徒へは、入学後に個別に面談をして説明をする必要があるかもしれないと感じる。 ⇒・学校見学がなかった生徒については、入学後の面談月間で担任の先生方より声かけをお願いしたい。 ○協力校との連携は両校ともにスムーズで、大きなトラブルはなかった。	A	・生徒をしっかりと見ないとB評価が増える。 ・主体性を見るために書かせる間は必要。 ・評価に費やされる時間の負担はある。	・新課程の評価方法、レポート作成等、他校の情報も得ながら、更に検討を重ねていきたい。 Googleクラスルームの活用に取り組みたい。
	12	レポートの管理、スクーリングの運営は適切であったか。	3.5	3.3	3.4	A				
	13	協力校との連携が適切であったか	3.3	3.4	3.1	A				
	14	教室および図書学習室の管理が適切であったか	3.2	3.4	3.1	A				
【4】 生徒	15	教職員間の共通理解に基づく生徒指導の徹底	3.4	3.2	3.0	A	○生徒情報の共有はできていた。生徒アンケートのあいさつや生徒会活動の満足度が低かった。 →・生徒会活動や特別活動については、生徒たちが主体性を発揮できるような活動にすることで満足度や充実感を改善していける。計画立案から準備、企画実行まで生徒たちが関わる場面を多くしていくことで改善をはかりたい。 ・実際に生徒会活動や特別活動に参加した生徒の振り返りからは高い充実感もうかがえていたので、より多くの生徒たちが「参加してみたい」「参加できそう」と思えるように、生徒会役員生徒とも協力しながら、企画を工夫していきたい。 ・参加生徒が増えるように教員からの声かけも積極的に。	A	・良好な取組であった。	・参加生徒が増えるように、生徒会活動等を中心に企画を工夫していきたい。
	16	担任・保健部・保護者等との連携による生徒への支援	3.4	3.3	2.9	A				
	17	生徒会を中心とした特別活動が充実していたか	3.2	3.0	3.4	A				
	18	人権・同和教育は計画的に推進されたか(推進委、たより、教職員研修等)	3.3	2.9	3.3	A				
【5】 進路	19	進路実現支援を目的とする各種行事の立案と実施が適切であったか	3.4	3.3	3.2	A	○外部講師を活用した講座やガイダンスを予定通り実施できた。理解は進んだが、理解したことを実践できるようにするために継続的な指導が必要である。 →講座や研修後に継続的な指導ができるよう振り返りシート等を改善したい。大学進学の可能性のある生徒について、模試を受けるよう勧めたり、個別に働きかけたりすることで入試に向けて時間をかけて準備できるようにする。	A	・先輩から学ぶ企画はよかったと思う。先輩の声を聞くことが生徒たちのためになる。	・来年度も生徒たちが少しでも前向きな進路選択に踏み出せるように、様々な支援、情報提供を続けていきたい。
	20	進路部作成資料の充実と生徒が閲覧しやすい環境の整備が適切に行われたか	3.2	3.3	3.3	A				
	21	他機関・団体からの情報収集と説明会等を通しての情報発信が適切に行われたか	3.4	3.4	3.2	A				
	22	年間を通じた外部講師の活用による関係機関との連携強化が適切に行われたか	3.3	3.4	3.3	A				
【6】 保健	22	健康観察・健康診断等による健康実態の把握、保健指導・健康教育の充実が行われたか	3.4	3.3	3.1	A	○事後のアンケート結果から、心と体の健康への興味関心が高まり効果的な指導につながった。 ○次年度も引き続き、保健調査・健康観察を行い、生徒の健康状態の把握に努め、受診の大切さを伝えたい。 ○コロナ対応は、難しい状態が続いている。可能な限り、協力し合いながら乗り越えていきたいが、定時制の生徒で2～3名、いつもマスクを外している生徒がいる。直接指導しても言うことを聞かない。「授業中も特に注意されていない」と周囲の生徒が言っていたが、できれば校内での教員間の協力体制を整えてほしい。 ⇒・コロナが5類になり、マスクも個人の判断でという国の方針が出ました。今後学校に対しては、文科省、県教委からガイドラインが出ると思いますので、それに従うことになります。ご指摘のとおり、全教職員で声をかけることが大切であると考えます。	A	・研修等をしっかりとやっていることはよい。発達障害等の研修は毎年必要で、毎年基本から学ぶ必要がある。発達障害も様々で色々な特性がある。見えているものが違っていたり、得意分野の知識はすごいがいずれは入らなったり、理解することが必要。	・生徒理解のための様々な研修を有効に活用していきたい。
	23	校内外の関係者との連携による支援を必要とする生徒への相談活動等が適切であったか	3.4	3.3	3.2	A				
	24	安全点検の実施と生活環境の点検・充実が適切に行われたか	3.4	3.3	3.1	A				
	26	教職員研修(衛生委員会・心肺蘇生法等)が充実して行われたか	3.3	3.2	3.1	A				
	27	(特支)生徒の実態に応じた支援や、教職員研修が充実して行われたか	3.2	3.2	3.2	A				
	28	(特支)関係諸機関との情報交換・連携、校内での情報共有が適切に行われたか	3.4	3.3	3.2	A				
【8】 ルーム	29	生徒の状況の把握と支援が適切であったか	3.2	3.2	3.2	A	・生徒の状況把握の難しさを感じる。先日、研修で発達障害と愛着障害について教わったが、状況把握の違いで支援策が大きく異なることを知り、あらためて状況把握の難しさと重要性を感じた。 ・生徒数が増えて、先生方の負担が大変そうに見える。人数が限られているので、改善方法はわからない。 ⇒・生徒の状況把握の難しさは特に協力校の生徒たちについては感じている。学校教員ができることは限りがある。他の支援団体とつながることが出来れば繋ぎ、我々ができる精一杯のことをしましょう。生徒数の増加で負担感は増していると思うが、人手不足は深刻で増員の可能性は薄いので、業務軽減のアイデアがあればお願いします。	A	・良好な取組であった。	・来年度も情報共有を密にし、様々な支援団体と連携を取りつつ、生徒の状況把握に努めたい。
	30	家庭との連携が適切であったか	3.2	3.2	3.0	A				
	31	学習進捗状況を基にした学習活動への支援が適切であったか	3.4	3.3	3.2	A				
	32	生徒の状況を把握するための情報交換が充実して行われたか	3.4	3.4	3.3	A				
	33	各分掌との連携が適切であったか	3.3	3.3	3.1	A				
【9】 事務	33	効率的・効果的な予算執行	3.4	3.4	3.2	A	・外部業者の選定にあたっては、必ず複数の見積りをとるなどして、プロセスを残しておくべきだと思います。 ⇒・外部業者の選定についてはご指摘のとおり、適正をお願いします。	A	・良好な取組であった。	・外部業者の選定も含め、お金がからむことには今後も厳正に対処したい。
	34	迅速・的確な施設設備の補修・保全と教育環境の整備	3.4	3.4	3.4	A				
	35	事務部と教員の円滑な連絡・調整	3.4	3.4	3.4	A				